

プランの概要

本プランは、「第3期東広島市教育振興基本計画」（令和6年2月）の施策を具体化し、計画的に展開するために策定したものです。教育のICT化の進展、教員の年齢構成の変化、共生社会の実現に向けた要請など、教育を取り巻く環境は大きく変化し、子供たちの資質・能力を高めるのはもちろんのこと、教職員、学校も変化を恐れずに挑戦する姿勢が求められています。

これまでの東広島教育の伝統、大学をはじめとした外部リソースの活用など、本市の特長を生かした教育を積極的に推進し、子供、教職員、保護者、学校、地域、そして教育委員会が、共通の目標に向かって挑戦し、更に高みを目指す新しい東広島教育を創造していきます。

育成を目指す資質・能力 ～ 子供も 教職員も 学校も ～

挑 戦
Challenge

主体的に判断し行動する自律性に加え、夢や高い志をもち、自分の個性や能力を生かしながら新たな課題や可能性に向けて果敢に挑戦することができる。

協 働
Collaborate

他者に対して自分の考えを根拠をもとに明確に説明しながら、対話や議論を通じて相手の考えを理解したり自分の考えを広げ深めたりし、社会の創り手として多様な人々と協働することができる。

創 造
Create

社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題解決に導き、さらに新たな問題の発見・解決につなげるなど、主体的に新たな価値を創造することができる。

プラン策定の3つの視点

学びが
変わる

新しい時代に対応し 学び続ける子供

教育のICT化の進展など、学校のエデュケーション環境、求められる学びの在り方は変化しています。そろえる教育から、好奇心、自主性を大切に、持続可能な社会の創り手として必要な、挑戦する心を引き出す教育への転換を図るため、その実現と環境づくりのための事業を展開します。

教職員が
変わる

探究心をもち 子供とともに 学び続ける教職員

教職員一人一人が働きがいを感じながら、資質・能力の向上を図るために、自己研鑽に励むことが求められます。研修履歴を活用し、研修内容が学校で実践されるための仕組みづくりを行い、教職員の挑戦を支えるとともに、働き方改革を推進する事業を展開します。

学校が
変わる

全ての子供の可能性を引き出し 地域と協働する学校

特別な支援が必要な子供や外国につながる子供など、教室の子供たちは多様です。誰一人取り残されず、一人一人の多様な個性・能力を伸ばすために、地域と協働し、地域とともにある学校づくりに向けた事業を展開します。

本プランは、今後の教育の方向性を示す羅針盤として作成したものです。
本プランは、毎年評価・検証し、修正を行います。

第6次学校教育レベルアッププラン

The 6th Level Up Plan for school education 令和6年度 ▶ 令和10年度

目指す子供の姿

「夢と志」をもち、
未来に向かって果敢に挑戦する子供

challenge

今、子供たちの未来のために、

新しい教育、新しい学校づくりが求められています。

地域と協働し、地域とともにある温かな学校において、

子供たちは、学び続ける教職員と共に、誰一人取り残されることなく、

確かな資質・能力を培い、未来に自信をもって羽ばたいていく。

そんな新しい東広島教育の夢と志を詰め込んだプランです。

令和8年4月
東広島市教育委員会
(令和6年3月策定)

第6次学校教育レベルアッププラン

The 6th Level Up Plan for school education

令和6年度▶令和10年度

令和8年度版

目指す子供の姿

「夢と志」をもち、
未来に向かって果敢に挑戦する子供



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援します



3つの視点と主な取組



新しい時代に対応し 学び続ける子供

個別最適な学びと協働的な学びの
一体的な充実

学びのDXの推進

1人1台端末利活用の促進

外国語教育の推進

トライアングルプランの推進

幼保小連携・接続の充実

健康増進・体力づくりの推進

学校図書館教育の推進



探究心をもち 子供とともに 学び続ける教職員

校内研修等の充実

市主催研修（管理職・全教職員）の充実

若手教員の育成

中堅教員の育成

生徒指導の充実

働き方改革の更なる推進



全ての子供の可能性を引き出し 地域と協働する学校

特別支援教育体制の構築

不登校等児童生徒の学びの場や
居場所づくりの充実

外国につながる児童生徒への取組の充実

部活動の地域展開

コミュニティ・スクールの推進

特色ある学校づくりの充実

小中一貫・小規模校の教育の充実

スケジュール

● 予定 ▶ 方向性



主な成果指標・目標値

児童生徒

項目	初期値 R 5 年度	現状値 R 7 年度	目標値 R10年度
「学校に行くのは楽しいです」 において肯定的に回答した児童生徒 の割合	小87.3% 中88.3%	小88.1% 中89.1%	小100% 中100%
「難しいことでも、あきらめな いで挑戦しています」において肯 定的に回答した児童生徒の割合	—	小89.4% 中88.7%	小90% 中90%
「授業では、自分で考え、自分 から取り組んでいます」において 肯定的に回答した児童生徒の割合	小87.0% 中86.1%	小86.2% 中87.3%	小90% 中90%
「授業では、相手の考えから自 分の考えを広げたり、協力して 取り組んだりしています」におい て肯定的に回答した児童生徒の割合	小89.5% 中84.2%	小88.4% 中89.7%	小90% 中90%
「アイデアを出して解決方法を 考えたり、工夫して取り組んだり することが好きです」において 肯定的に回答した児童生徒の割合	小86.7% 中85.0%	小84.5% 中84.2%	小90% 中90%
「将来の夢や目標をもっていま す」において肯定的に回答した児童 生徒の割合	小84.0% 中72.9%	小85.5% 中78.6%	小100% 中100%
「授業で1人1台端末をどの程 度使っていますか」において「ほ ぼ毎日」「週3回以上」と回答した 児童生徒の割合	小61.1% 中57.5%	小87.7% 中90.6%	小100% 中100%
不登校児童生徒のうち、学校内 外の機関等で相談・指導等を受 けている児童生徒の割合	小46.6% 中56.5%	小61.4% 中56.9% ※	小100% 中100%

※文部科学省「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」
（令和7年4月実施）に基づく

教職員

項目	初期値 R 5 年度	現状値 R 7 年度	目標値 R10年度
「学校は働きがいがあります」 において肯定的に回答した教職員の 割合	小95.8% 中92.9%	小95.5% 中93.7%	小100% 中100%
「子供と向き合う時間が確保さ れています」において肯定的に回 答した教職員の割合	小74.9% 中65.2%	小79.4% 中68.3%	小80% 中80%

※B B ベース：コミュニティ・スクール（学校運営協議会）での「熟議」を通じて、
学校と地域が協働してつくる「遊び(ASOBI)」・「学び(MANABI)」があり、子供
にとって「基地(BASE)」となる居場所（場所、時間、人とのつながりを含む）